

【著書】家畜外科学[昭和50～平成4年(1975～1992)], 小動物の輸血と輸液[昭和62年(1987)], 日本装蹄発達史[平成元年(1989)], 犬フィラリア症の歴史—難病の克服まで—, 犬の難病フィラリア症の実態。

【参考文献】黒川外科研究業績集(1～6巻)[昭和25年～60年(1950～1985)日本獣医畜産大学獣医外科学教室], 奉職40年の思い出[昭和62年(1987)黒川和雄]

深谷謙二 (FUKAYA Kenji)

波岡茂郎

NAMIOKA Shigeo (1929～2014)

昭和4年(1929)8月22日波岡三郎，鐘子の二男として兵庫県姫路市に生まれ，平成26年(2014)4月22日逝去，享年84歳，14歳で受洗し，洗礼名ルカを授与。獣医師，獣医細菌・衛生学者，昭和34年(1959)7月「*Proteus*に関する研究」により北海道大学から獣医学博士の学位を授与。平成8年(1996)「実験動物および産業動物としての，ノトバイオート・SPF豚の作出に関する研究」により日本獣医学会の越智賞(第8号)を授与。



【学歴】昭和17年(1942)4月旧制姫路中学校入学，同21年(1946)3月同校4年終了，同年4月盛岡高等農林専門学校入学，同24年(1949)4月北海道大学農学部獣医科学科入学，同27年(1952)3月卒業。

【経歴】昭和27年(1952)4月農林省家畜衛生試験場調査第一部の助手に任用，同年11月に同部細菌第2研究室に配属，34年(1959)9月研究第一部第1研究室に移動，40年(1965)4月に同室長に就任。この間，36年(1961)5月から37年6月まで「*Pasteurella*の分類学的研究」のため米国コーネル大学に出張。47年(1972)10月から翌年3月まで東京大学農学部獣医科講師を併任。49年(1974)4月に北海道大学獣医学部家畜内科学講座の教授として文部省に出向，61年(1986)4月に新設された実験動物学講座初代教授，同年5月獣医学部長に就任，平成5年(1993)3月に定年退官，北海道大学名誉教授。この間，学内では大学評議員，各種委員会委員，また学外では60年(1985)4月から平成9年(1997)3月まで日本獣医学会理事，その間の平成3年(1991)4月から6年(1994)3月まで副理事長を歴任。昭和63年(1988)から平成5年(1993)まで実験動物学会理事に就任。平成8年(1996)から

24年(2012)に日本獣医史学会理事，監事，編集委員を歴任，平成25年(2013)名誉会員。平成3年(1991)設立の日本SPF豚研究会理事に就任。

【業績】家畜衛生試験場細菌第2研究室勤務の当時，新進気鋭の腸内細菌研究者として注目されていた坂崎利一博士の薫陶を受け，腸内細菌の分類学的研究に従事，学位論文「Proteusに関する研究」を発表。細菌第1研究室へ移動後は，家畜・家禽のパスツレラ症の原因菌である*Pasteurella multocida*の菌体O抗原の解析を進め，米国コーネル大学留学中の研究成果を含め新たな血清型別“波岡の分類”を確立，昭和39年(1964)日本獣医学会賞を授与。

米国留学中の知見により実験動物あるいは畜産目的での豚のSPF・ノトバイオート化は慢性疾患の研究あるいは将来の企業養豚の発展のため必須と確信，帰国後の昭和38年(1964)にSPF豚作出法に関する実験を開始，翌年，家畜衛生試験場内にSPF豚飼育管理棟を設立，翌40年(1965)5月下旬に最初のSPF豚作出に成功。これによりSPF豚による各種感染症の研究が可能となり豚病の診断，予防技術の開発に著しく貢献したのみならず，SPF豚の一部は畜産目的で官・民の養豚場に配布され，わが国養豚界へのSPF豚導入の先駆けともなった。また，平成3年(1991)に日本SPF豚協会が発足し，設定された「SPF豚農場認定制度」における認定委員会の初代委員長に就任(1994-2000)，委員長退任後も終生，委員として後進を指導，SPF養豚界における精神的，技術的支柱として，その正しい発展に寄与。

北海道大学獣医学部家畜内科学講座の教授時代には，波岡教授の講義は論理的で理解しやすく，その洗練された話し方，おしゃれな服装やスマートな立居振舞に魅せられ，多くの学生のみならず研究生も集まる人気講座であった。なお，研究面では，哺乳豚の免疫機構あるいは豚に対する蛋白質代替飼料としての非蛋白態窒素の有効性に関する研究など，また，実験動物学講座に移動後には豚をモデル動物とした消化管免疫機構や実験動物としてのミニブタに関する研究などを展開，その成果は学術的のみならず畜産領域にも有用とされ，大学退官後も全国農業協同組合連合会および(株)科学飼料研究所の非常勤嘱託(1993-2008)として畜産現場への応用研究を指導。

【参考文献】波岡茂郎：ノトバイオートおよびSPF豚の作出に関する回顧. 日本獣医史学誌41, 64-66(2004)，赤池洋二：波岡先生を偲ぶ. All about SAWINE 45, 1-6(2014)

佐藤 静夫 (SATO Shizuo)